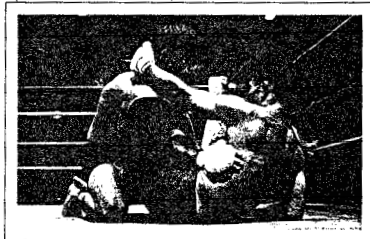


高専柔道の特色である引き込みからの正対、グレイシー柔術でいうカギポジションの体勢だ。高専柔道は相手の体の間に足を突っ込んでコントロールする



不  
定  
期  
シ  
リ  
ズ  
格  
技  
講  
座  
第  
四  
回

# 高専柔道の テクニックを ハク!!



技術解説  
堀辺正史  
柔道部顧問

グレイシー柔術に一番近いと言われる寝技主体の高専柔道。日本にも人知れず脈々と伝わってきた武道があったというところで、今脚光を浴びているがいち早く着目した格闘家は、堀辺師範に登場していただき、格闘技全体の目から高専柔道の技術を分析してもらった。我々は高専柔道の、どんなところを学ばばいいのだろうか。

写真  
7月1、2日  
国立七大学柔道優勝大会より  
聞き手／谷川貞治

写真(左上)カギの状態で「寝技」だったカギポジション、そこから足で突っ込んで相手の体をコントロールする。このカギの状態は、高専柔道の特色である。グレイシーの寝技は、両足で相手の脚をはさみ、突っ込んで相手の体をコントロールする。カギの状態は、高専柔道の中井指導者の間に足を突っ込んで、高専柔道のようなカギポジションを見た。





### ●寝技の攻防

正対の攻防が解けると抑え込みの攻防に入る。横四方固め、上四方固めを狙う展開がよく見られた



### ●足がらみに注目!

抑え込みにいこうとしても、とにかく両足で相手の足にからみつく攻防がよく見られた。これがとても詳細。写真は二重でからみついているため、なかなか技けられない



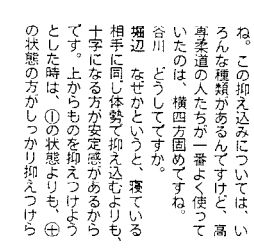
### ●鬼→帯取り

しばらく寝技の展開が速くと、男勝に立たされた方が鬼状態になる。それに対して、帯をもつてひっくり返す展開がよく見られた。写真は相手の背中にヒザを当てて支点とし、帯をもつて返そうとしているところだ



### ●抑え込み

そして、最後は抑え込みでフィニッシュ。間断、絞め技よりも多く見られた。写真は上四方固めがほぼ決まったところ



### ●正対

引き込んだ後は、このように相手と向かい合った正対の形となる。いわゆるガードポジションだ。しかし、グレイシー柔術に比べ、高専柔道では相手との体の間に足を当てたりヒザを入れてコントロールする特徴がある。そして、道衣を掴んでいるところも注目したい。つまり、道衣と足のコントロールで相手を崩すのが高専柔道の正対というわけだ。背中がペタリとつけず、いつでもエビの姿勢で逃げられるようにしている



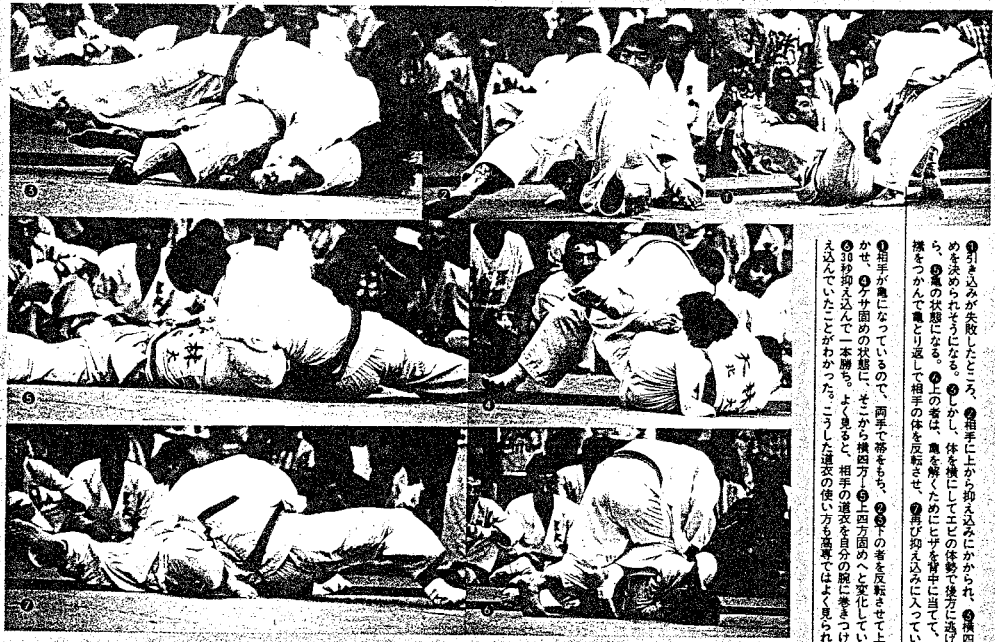
### ●正対からの攻防

正対の後の攻防。ここがグレイシー柔術と比較しても、高専柔道の面白さである。①オサレでもオサレる体だが、両手で相手の首をキツキツ。ここから後手引つり返すことが出来る。②相手の両足の間に自分の足を入れ、足の甲と土手をキツキツにキスする。ここから、相手首や後手、横を倒す形での体圧差が生まれる。③相手の首を引く。④相手の首を引く。⑤相手の首を引く。⑥相手の首を引く。⑦相手の首を引く。⑧相手の首を引く。⑨相手の首を引く。⑩相手の首を引く。⑪相手の首を引く。⑫相手の首を引く。⑬相手の首を引く。⑭相手の首を引く。⑮相手の首を引く。⑯相手の首を引く。⑰相手の首を引く。⑱相手の首を引く。⑲相手の首を引く。⑳相手の首を引く。㉑相手の首を引く。㉒相手の首を引く。㉓相手の首を引く。㉔相手の首を引く。㉕相手の首を引く。㉖相手の首を引く。㉗相手の首を引く。㉘相手の首を引く。㉙相手の首を引く。㉚相手の首を引く。㉛相手の首を引く。㉜相手の首を引く。㉝相手の首を引く。㉞相手の首を引く。㉟相手の首を引く。㊱相手の首を引く。㊲相手の首を引く。㊳相手の首を引く。㊴相手の首を引く。㊵相手の首を引く。㊶相手の首を引く。㊷相手の首を引く。㊸相手の首を引く。㊹相手の首を引く。㊺相手の首を引く。㊻相手の首を引く。㊼相手の首を引く。㊽相手の首を引く。㊾相手の首を引く。㊿相手の首を引く。



にそんな居の姿勢をとっていたという習慣があったわけだ。それが日本の武道の礼式にも残っている。正座というと安土桃山時代の茶道が発展した頃から習慣になつてい。だから、日本人の足腰は非常に強くて柔らかいんですよ。谷川 トイレも和式をすつと使つていましたからね。堀辺 ええ、だから引き込まれた時に、足腰の強い日本人は、当然対抗としてそんな居の形を作るわけです。普通なら投げられてしまつところをそんな居の形をとることで五分五分になる。これは、ガードポジションが五分五分だという理屈と全く同じなわけだ。谷川 もし、そんな居の形が苦手な敗米人なら、正対の攻防はなくなるでしょうね。堀辺 普通なら、引き込んだらすくに寝技にもち込めるんだけれども、腰を落とすとして五分の攻防が生まれる。ここで、草刈りといった高専柔道独自の技術が生まれるんですよ。相手の足をひた、ハツキリいうと、腰を落とすような倒し方、相手が「あつ」と思った瞬間にひっくり返されるテラニツクがたくさんある。おそう、ハンクラスの人達か、ビデオで高専柔道のテラニツクを研究しているのもこの部分じゃないですかね。谷川 ああ、なるほど。それをヒザから足先を使い、道衣を掴んで展開していくんですね。堀辺 そうして、次に抑え込みです。この抑え込みについてはいろいろな種類があるんですけど、高専柔道の人たちが一番よく使っていたのは、横四方固めですね。谷川 どうしてですか。堀辺 なせかというところ、寝ている相手に同じ姿勢で抑え込みよりも十字になる方が安定感があるからです。上からものを抑えつけようとした時は、①の状態よりも②の状態の方がしっかり抑えつけら

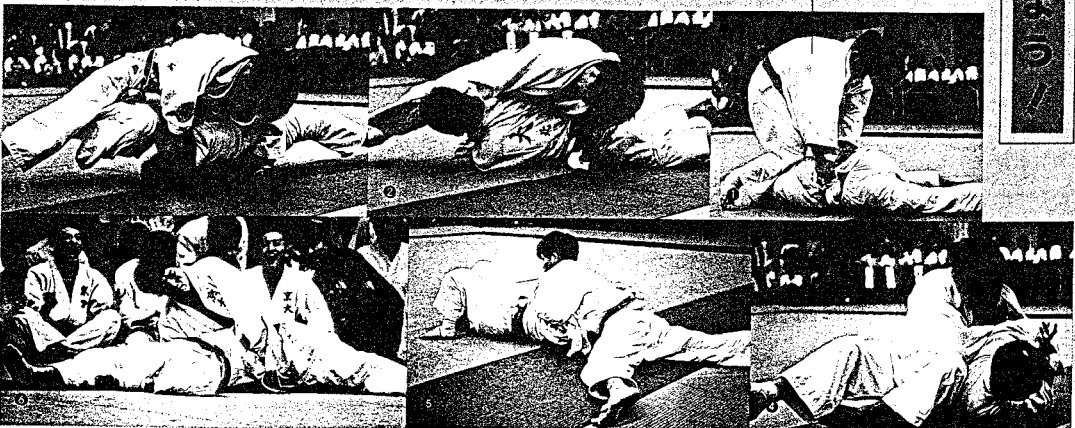
では、実際の流れを追ってみよう



●引込みが失敗したところ、●相手にから抑え込みがかられ、●横四方固めを求められようになる。●しかし、体を傾けてエビの姿勢で後方に逃げながら、●亀の状態になる。●上の者は、亀を解くためにヒザを背中に出して、帯と襦をつかんで亀と向き直して相手の体を反転させ、●再び抑え込みに入っていく。

●相手が亀になっているので、両手で帯をもち、●下の者を反転させて上を向かせ、●エビの姿勢に、そこから横四方固めを四方固めへと変化していく。

●抑え込みで一本勝ち。●見ると、相手の両足を自分の腕まわりに抑え込んでいたことがわかる。こうした技の使い方も高専ではよく見られる。



れるでしょう。腕ひしぎ十字固めがよく極まるのも、そのためです。谷川 なるほど、高専柔道の場合は、関節技や絞め技、必ずしも「まいった」をとらなくてもいい。ただ上から抑え込んで30秒たてば勝ちになるので、一番安定感のある横四方固めが多くなるんです。この横四方固めと相手の頭の側から抑える上四方固めが多かったですね。

谷川 それ最終形ですね。

堀辺 ところが、この横四方を嫌がって、亀になる選手が出てくる。だから次の攻防に亀の状態をどうやって解くか、亀とりの技術が必要になってくるんです。ルールでは、亀の状態を抑え込んで一本勝ちにはなりませんからね。だから、もう一度ひっくり返す技術が発達している。だいたい、高専柔道の大きな流れは、こういう展開です。

谷川 この亀の状態になった時に、相手の首に手を回したり、ワキの間に足を入れようとする場面が見られたんですけど、非常に守りが固くてなかなか入りませんでしたね。

堀辺 あまり足から入らないから、じれ蹴飛ばしてはいた選手もいましたね(笑)。これはグレイシーのように他流試合をやるならば、打撃が使えますよね。だから、パンチを入れておいて、ワキを甘くしたり首を甘くしたりできる。ところが高専柔道には当て身がないので、亀になる技術も発達してきました。本当に亀が甲羅の中に自分の首や手足を引っ込めたくらい固い。だから、帯をとる必要がでてくるんです。

谷川 でも、本当にレスリングやプロレスリングで見られる亀の状態よりもうんと固くて、スギがなかつたんですね。

堀辺 それでも、その亀をひっくり返す技術がたくさんあるのも、高専柔道の特徴なんです。ここ

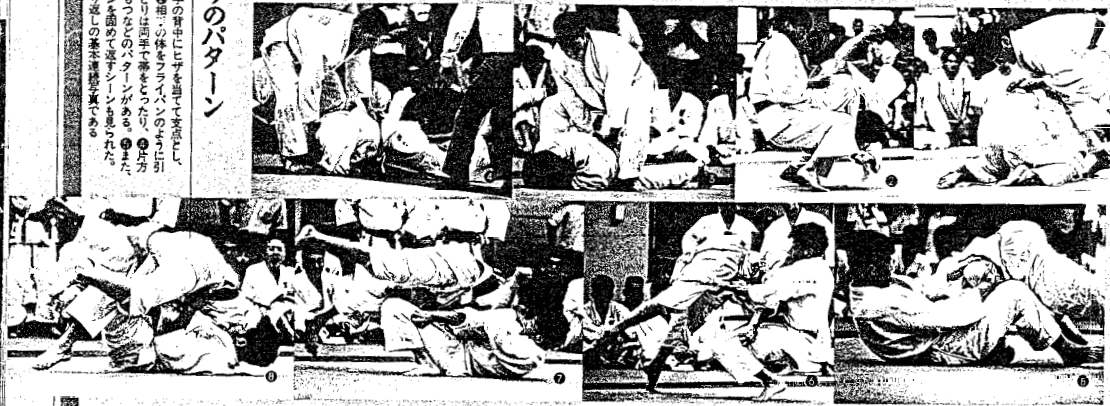


①引き込みが不十分のため、②相手を上に登つかれてしまう。③そのため、抑え込みをさげようと背中を向けて飛になる。④上になったものは重心を十分かけて機敏に、⑤相手を反転させて詰めにかかる

⑥飛になっている相手のワキとヒザの間に足を入れて、⑦回転しながら、相手を引っくり返す。⑧ところが、飛になっている相手を引っくり返される途中で体を回転させて相手と向き合うことに成功。⑨そこで抑え込みに入られたらマズイと思い、さらに一回転してまた逆転。⑩そこから肩固めにガッチリと入った

●帯とりのパターン

●帯とりの例、相手の背中にヒザを当てて反転し、帯とりの体をつつ、相手の体をフラインクのように引っぱり返す。●帯とりは両手で帯をつかむ、●片方は帯の片方をもち、帯のボタンがある。●また、帯とりの途中ではヒザを固めて逆ターンさせられた。●これは帯とりの基本練習写真である。



も学ぶべきだが、たくさんありますね。  
 谷川 あと、抑え込みの攻防の中で、相手の片足を両足で挟み込んで、足をからませて抑え込みを器用に防ぐ技術も目につきましたね。  
 堀辺 そうです。だから高専柔道の試合がどう展開して行われるかというところ、①引き込み②正対③正対から相手を倒す技術④抑え込み⑤逆転⑥飛⑦抑え込み⑧逆転⑨逆転して流れていくことをまます把握してもらえは理解しやすいんじゃないですか。谷川 とてもわかりやすくなりました。  
 堀辺 それから個々の技術一たどえば正対からの倒し方や帯とりの技術については、種類がたくさんあるので、それらについては私のような門外漢の者より、専門家に聞いていた方がいいと思います。  
 谷川 あ、でも先生に全体像を分析していただいたおかげで、高専柔道の見方がわかってきましたよ。逆に専門家になると、なかなか全体像が見えませんが、個々の技術に入ってしまうからな。  
 堀辺 ある意味では、高専柔道は講道館柔道のアンチテーゼになっていますね。このアンチテーゼを唱えることが、逆に進化をもたらすわけですよ。たとえば、柔道の山下泰裕さんの本を読んで、柔技は高専柔道を参考にしている部分が多い。物事というものは、常にアンチテーゼを唱えることで発展していくんです。だから骨法でもさらに高専柔道の源流を参考に技術を変化させているんです。道衣などは高専柔道がやっている正対からの攻防をどうするか、その改良を最近完成させたばかりなんです。骨法で行われた第三回の祭典では、骨法独自の、また新しい技がお見せできることを約束します。

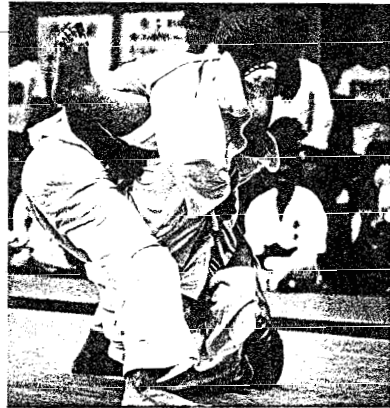


○亀の状態を上から回転して腕ひしぎ十字固め狙い

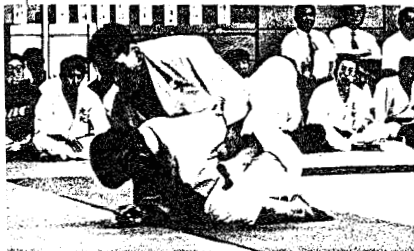


○腹固めからの返し技

○寝技主体の高専柔道はとにかく守りか固いのも特徴だ。上から相手のワキに足をつっ込もうとしてもなかなか入らない。これは、他の寝技の戦技も手にはきだろ



○下からの腕ひしぎ十字固め



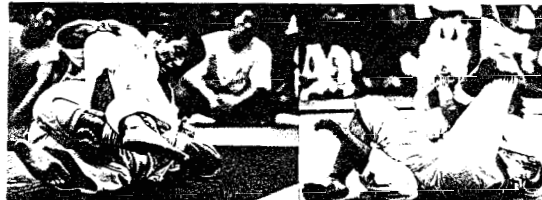
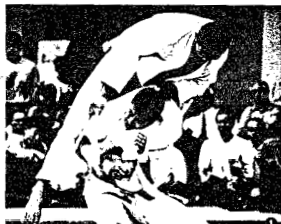
○擦殺め



○こんなハデな技も見られた。①相手に飛びつくように頭の上から足を巻きつけ、さらに横をもって回転し、②相手を反転させて擦殺めに入っていた

○下からの三角絞め。自分の手で足を引きよせ、さらに深く極めにかかる

○高専柔道の特徴は足がみにある。とにかく粘りこく、相手の足にからみついて抑え込みを防ぐ攻防が見られた



高専柔道の極め見られた

谷川 僕は今回の高専柔道で、あらためて寝技系の格闘技の技術を見つめ直してみたいと思いましたよ。たとえば、高専柔道に引き込みがあることを知ったんですけど、引き込みをわサンボも凄いいんやないかと、こゝ思ってたんです。擦殺め あの時、サンボに関しては投げは引き込みなんてす。飛びつく前蹴りとか、捨て身技は、サンボ自体では使っていないんですけど、柔道用語の引き込みです。グレイシー柔術もアルティメット大会ではタックルや足を掛けて倒すシーンが多いんですけど、柔術の大会では引き込みが多用される。つまり、講道館柔道は投げ技の極致を求めているんですけど、高専柔道とサンボ、グレイシー柔術は引き込みを使うという点で、投げ技に共通点が見られるんです。しかも、投げ技を重視していない分、どれも寝技に重点を置いている。谷川 よく柔道の選手が、サンボの試合で寝技にも込まれるのはこの引き込みが戸惑うからじゃないでしょうか。擦殺め そうそう。それで旧ソ連の人たちは引く腕力が物凄く強い。だからサンボの技術に引き込みがよく使われるのはわかるんですけど、美しく投げなくても、腕力で引っばれば倒せるんです。谷川 そうやって寝技を検証していくと、あらためて面白いですね。今までサンボという関節技という最終形しか自がいかなかつたんですけど、引き込みという概念が頭に入っただけで別の角度から見てもたくなりまして、当然引き込みがあるということは、言葉ではガイドポジションや正対という言葉は使っていないかもしれないですけど、サンボ流のカードポジションの技術はあるはずですよ。ぜひ知りたいですね。そういったことをこれからどんどん取材していきたいと思えます。